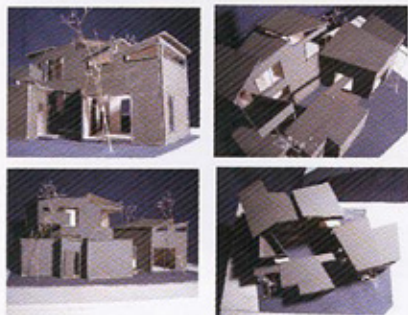


1st YEAR

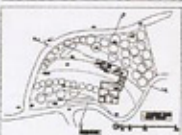
PORTFOLIO
www.spot.kogakusha.ac.jp

THE NATIONAL INSTITUTE OF DESIGN UNIVERSITY
STUDIO WORK '06

三宅客家族の住心家
子育て中心にそれぞれの部屋を配置。広い中庭は家族みんなの場として利用できる。老人の部屋とリビングを塗り塗り下で結び、中庭から外部の庭へ光と風が通り抜ける空間にした。老人の部屋は、南向きの段差のない1階に配置し、リビングから家族が見守れるようにした。プライベートな空間を持ちつつ、家族があいまいの存在を感じられる空間にした。



STUDIO
2006 Akiko Matsumura



中村正義美術館
中村正義の輪を室内だけでなく外部にも表示し、根拠的な道を減少しながら設置できる空間にした。休憩室をかかえた資料室は展示室の建物と分離しているが、二つの建物が外部空間で繋がるように屋根の軸上に配置した。

2nd YEAR

Creative Review
March 2007

2部 建築科

1st YEAR

PORTFOLIO
www.spot.kogakusha.ac.jp

THE NATIONAL INSTITUTE OF DESIGN UNIVERSITY
STUDIO WORK '06



さまざまな入り組んだ階がもつ浮かんている。1階部分にあるアトリエが2つ、2階部分にある主寝室と子供部屋が3つ。そのうちの階が独立し、浮かんでいるため、その階から光がリビングへ漏れ、溢まる。



STUDIO
2006 Nanae Matsuzaki



階の庭を中心段差を生かして設計した。それぞれのリビングから違ったレベルで庭を眺めることができ、中庭からは限定された景色を楽しむことができる。内部空間は階列の庭へ自然と溢まってくるよう、北から南へ徐々にレベル差をつけている。庭は、想で覆われた中庭で人の視線を気にすることなく、リビングから漏れる光で映し出された木々を美しみなながらゆったりと過ごすことができる。



この地域には昔から残る様々な魅力的な場所がある。そこからヒントを得て外観を設計した。アプローチからエントランス、劇場内部へとまっすぐな軸線をイメージする。内部に入ると、下に向けられた視線が舞台へ、そして奥に高く配置された座席へ向かう。視線は座席にそって上に向かい、天井のフォルムへ移り、エントランスへ抜ける。ゆっくりり屋上へ向かう階段とスロープは、左手に舞台を望みながら進む。屋上へ上がると座席を思わせる狭くときには急な階段を這む。そこを抜けると周辺に広がる緑地帯に浮かんだステージが出現する。

2nd YEAR

Creative Review
March 2007